

会 議 概 要

会 議 の 名 称	令和4年度第2回弘前市地域自立支援協議会
開 催 年 月 日	令和5年3月31日（金）
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時30分から14時30分まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	社会福祉法人弘前市社会福祉協議会岩木支部長兼身体障害者福祉センター長 小林 雅也
出 席 者 （ 1 5 名 ）	弘前市地域自立支援協議会委員 地域生活支援センターぴあす 所長 五代儀 明子 津軽障害者就業・生活支援センター 所長 村上 武史 NPO法人光の岬福祉研究会 代表理事 太田 真 NPO法人 銀河 理事長 菊池 健弥 社会福祉法人 藤聖母園 児童発達支援センター弘前大清水学園 園長 三浦 睦智美 一般社団法人弘前市医師会 理事 須藤 武行 弘果 弘前中央青果株式会社 取締役部長 大中 実 青森県地域包括・在宅介護支援センター協議会 理事 土岐 浩一郎 弘前市身体障害者福祉連合会 会長 森山 正 弘前地区心身障害児者父母の会連合会 副会長 大高 義昭 弘前地区精神障害者家族会いずみの会 副会長 會津 茂子 社会福祉法人弘前市社会福祉協議会岩木支部長兼身体障害者福祉センター長 小林 雅也 弘前学院大学社会福祉学部 講師 丸山 龍太 中南地域県民局地域健康福祉部保健総室健康増進課 課長 青木 範子
欠 席 者 （ 6 名 ）	弘前市障害者生活支援センター 所長 三浦 千秋 弘前地区小学校校長会弘前市立大成小学校 校長 山田 司 弘前第二養護学校 校長 下川原 慶子 株式会社弘前ドライクリーニング工場 取締役副社長 久保 栄一郎 弘前人権擁護委員協議会 弘前・西目屋地区部会 部会長 笹森 智彦 弘前公共職業安定所 所長 豊島 幸弘

事務局職員の職氏名	福祉部長 秋元 哲 福祉部障がい福祉課長 成田 亜弘 福祉部障がい福祉課長補佐 前田 修 福祉部障がい福祉課主幹兼障がい者支援係長 鳴海 雅剛 障がい福祉係総括主査 鈴木 由乃 障がい福祉課主事 吉田 沙織
会議の議題	1 開会 2 会議 案件 弘前市障がい者・障がい児施策推進計画の進行管理について 3 その他 各専門部会からの報告について 4 閉会
会議資料の名称	次第 委員名簿 席図 資料1 弘前市障がい者計画の令和2年度、令和3年度実施状況について 資料2 第6期弘前市障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の令和2年度、令和3年度実施状況について 資料3 弘前市地域自立支援協議会相談支援専門部会 令和4年度の活動報告及び令和5年度の活動計画について 資料4 弘前市地域自立支援協議会こども専門部会 令和4年度の活動報告及び令和5年度の活動計画案について

会議結果	
1 開会 2 会議 (1) 弘前市障がい者・障がい児施策推進計画の進行管理について 質疑・意見等 委員	事務局職員の紹介 会議定足数の確認 進行を会長へ委ねる 資料1 弘前市障がい者計画の令和2年度、令和3年度実施状況について、事務局より説明。 8ページ、第4地域共生社会の実現に向けた取組①地域自立支援協議会の充実、基準が年2回だが、令和5年度の実施回数も年2回の予定なのか確認したい。2回だと部会の活動が見えにくく、協議会の意義が薄まる危険性がある。少なくとも3～4

	<p>回ほど開催したほうが良いのでは。</p>
事務局	<p>部会の活動計画、計画の進行管理を案件のベースとして2回を基準としている。令和5年度は障がい福祉計画・障がい児福祉計画の改訂を予定しており、回数は増える予定。各部会からの提案や中間状況報告などについては柔軟に対応していきたい。</p>
委員	<p>ほかの部会のご意見もいろいろ聞く機会があると、こども部会の議論への情報等を入手できるので1回でも多く開催できればと思い提案した。お忙しい方もいらっしゃるので年間スケジュールをお示しいただけるのであればお願いしたい。</p>
会長	<p>活動報告を通じて協議会の委員それぞれがシームレスな対応をする。情報の共有あるいは方向性の統一性をもって臨んでいくことも必要。そういった他の部会の意見を共有していく機会、あるいはその場面というのが必要かと思う。また、新年度は計画の改訂年度であり、作成までのスケジュールと併せて協議会開催時期を組んでいく必要がある。</p>
委員	<p>13 ページ、2020 年の目標値 55.0%ということで2019年には既に達成されていた数字。2020年度、2021年度は57.2%、54.6%と若干下がって来ていた。コロナで173社あるいは183社、交流が難しいという事情があったかもしれない。また景気が回復していけばこれが元の60数%いくかもしれないという期待感を持っているのでそこを調べていただきたい。55.0%の目標値が何を以て出て来たのか調べていただき、なるべく全国平均を上回るような目標値に向かって欲しい。</p>
事務局	<p>この数字は商工労政課を通じハローワークさんに情報提供いただきながら設定。今回の資料1の評価については感染症の影響が大きく、事業の取組状況、内的な要因でこの評価になったのかは難しい。今後の回復に合わせ現状に合わせた取組が必要になる。</p> <p>資料2 第6期弘前市障がい福祉計画及び第2期障がい児福祉計画の令和2年度、令和3年度実施状況について事務局より説明。</p>
委員	<p>資料2の1(5)障害児通所支援等、放課後等デイサービスにつ</p>

	<p>いて、子どもの総数が減少しているのにサービスの対象となる子どもは年々増加している。放課後等デイサービスを受け皿的に増やし続けることが良いのかどうか。この設定は現実的ではないのではないか。共生を推進するのであればここに上がる数字は横ばいもしくは減少していくことが計画の評価基準になるのでは。ここに保育園や児童館の中での障がい児等の数を追加することを検討いただきたい。また、そういった場所で多様な子どもを受け止める具体策も考えていかなければいけない。</p>
事務局	<p>単純に放課後等デイサービスを増やすことを考えているのではなく、実際利用したいとか利用を待機している状況があり増加傾向としている。実際は保育所等で一緒に過ごせるのがベスト。教育委員会やこども家庭課とも連携し皆さんからの意見をいただきながら検討していく内容と考えている。</p>
委員	<p>令和5年度からこども家庭庁ができ、一般施策と障がい児施策と一緒になったときに、弘前市としてはどのように子どもを真ん中に置いた政策を作っていくのか。一般施策と障がい児施策の間で躓いている子どもが結構いる。今後の方針を教えて欲しい。</p>
事務局	<p>こども家庭課と障がい福祉課が合併するような予定は無く、こども家庭課において政策を充実させていくため人員を増やして子どもに関しての施策に力を入れていく体制を取っている。一般施策と障がい児施策の狭間の子どもたちへの対応は今後検討していく課題であると思う。</p>
会長	<p>様々な制度・サービスができるほどその狭間に陥ってしまうことがどうしても出てくる。そういった方をいかに拾い上げていくか、制度化しない支援をしていくかがポイントになってくる。</p>
委員	<p>見込量とはどういうニュアンスか。医師会に関係するところという短期入所（医療型）は事業所が無いが実際のニーズとどう関係あるのか。ニーズが高ければ作らないとだめだし。</p>
事務局	<p>見込量について、青森県の計画をベースにした項目なので、弘前圏域で不要な部分でも項目を設定してることもある。来年度の計画改訂の際にはアンケート等で利用者ニーズを把握しな</p>

<p>3 その他 各部会からの報告</p>	<p>がら地域の実情を十分反映させたものとしていきたい。</p> <p>委員 県等の広域と違って、地域のニーズを拾えるのが良さだと思 う。なるべく把握できるように動いてもらいたい。</p> <p>相談、こども、就労各部会長より、令和4年度活動状況、令和 5年度活動計画について説明</p> <p>委員 今コロナにより病院で人が足りないという話になっているが、 どこでも人が足りない。ここにあるような各項目に関してここ にいる人達は対応できるがそうでない人もたくさんいる。状況 を市役所なり議員さんなりわかって動かないとうまくいかない のでは。資料1のような、実施状況というやり方では評価で きないような状況になってきている。国や県からの仕事に対 し、やり方にこだわる必要はあまり無いと私は思う。そういつ た中でどういうところに必要なものを配分するのかという状 況でみんな仕事をしている。部会もボランティア。そういう心 意気がつぶれないような形で市役所も議員さんも応援して欲 しい。</p> <p>会長 どこでも人材が足りていない状況。需要と供給という事実で評 価しづらい部分はある。サービスや支援は、利用する方が不利 益を被らないことを前提に、維持していかなければならない。 資源をどのように活用していくのか、ますます厳しい状況だが 課題の解決へ向けて考えていかなければいけない。</p> <p>委員 委員からもあったが、必ずしも専門職員だけではなく、インフ ォーマルな中で人材を養成する等、お金つけたいと思ってやろ うとすると無いからできないとなってしまうので、なくても対 応できる部分、福祉はそういうまだら色の部分を埋めていくの は大事。そこも一緒に考えていければ。</p> <p>委員 人材が本当に福祉で低迷している。足りないと言ってるだけ なく行動。自立支援協議会という場でこんなに頭数があればア イディアだったり、創意工夫の視点はあるはず。人材育成もそ うだが人材育成は実践と研修の二本をどれだけ組み合わせら れるかだが、福祉ならそれはできると思う。私が言いたいのは 人材発掘で、スペシャリストを最初から採る気持ちは無く、学</p>
---------------------------	---

<p>前回協議会のご意見</p>	<p>校出た、資格持っていると云っても現場で何もできない。だからこそそこで経験と実績を積みながら切磋琢磨しながらという方法はあるが、そもそもの人材発掘するための企画が絶対的に必要。もっと福祉の魅力づくりみたいなのを仮テーマとして、学生、中途の方でもそういう企画を出していかないとどうにもならない。行政、福祉、一般の方とかの枠組みを無くして垣根を越えて作っていく。ぜひ次年度は行動を示せるようなパワフルな企画をやっていきたいなと私一人だけ思っているかもしれないので行政とも委員の皆さんとも一緒に力を合わせていきたい。</p> <p>会長 人材不足を嘆くだけでなく、発掘し育てていく、さらに実践を通して磨いて、現場の人材を育てていくということ。地域の中ではフォーマル、インフォーマルの二軸だけでなくよりナチュラルなもともとの方が普段持っている繋がりも視野に入れた取組、巻き込み方も実際進められてきているところ。そういった広いところでどう具体的にアプローチしていけるか、形にしていけるのかがこれからの課題でもある。</p> <p>委員 皆さんご存じと思うが、ChatGPTに「あなたは障害福祉の専門家です。企業内に障害者雇用の能力に長けた人材を育成していきたいが、どのような育成方法がいいか事例を紹介してください」と入れると答えが出てくる。楽しい回答ばかりが出てくるとは限らないがヒントはいくらでも発掘できるのではないかと。</p> <p>事務局 令和3年度協議会で承認されたインクルーシブ推進事業について説明</p> <p>委員 部会で提案し、事業化して予算をつけてみようというのはおそらく初めてだったと思う。共生社会とかインクルーシブの推進、これは障害福祉だけが考えることではなく、一般施策で考えることが重要。こども家庭課と障がい福祉課に分かれていることで難しいところがある。我々からアプローチできることには限界があり、一般施策でどうやってこういった子を受け止めていけばよいかという視点が無いとなかなか進まない。理解促進、研修、啓発というところはまず障害福祉からできる共生社会の推進。そこに加えて一般施策の中で障がいのある子、いろ</p>
------------------	--

	<p>んな人が保育、学校、職場で一緒に過ごすことがどうやったらできるのかを考えていくということをどうやってこれから作っていけばいいのかというのは大きな課題。協議会に商工、観光等の方々がオブザーバーとして参加するのも面白いと思う。今後力を合わせてやっていければ。</p> <p>会長 共生というところ、我々のサイドからインクルーシブという視点になりがちではあるが、ユニバーサルな視点というのは本来必要なのかなと思う。当事者の人たちが生活しやすい社会というのは私たちにとっても生活しやすい社会であるという基本的な考えも共有していく必要がある。他分野との連携を庁内あるいは地域の中でしっかりと作りながらやっていかなければならないのと、それを進める準備が必要。時間もなかなか無い中でやっていかなければならない。後手になればなるほど課題が大きくなっていく。計画的に進めていかなければならない。</p> <p>事務局 令和5年度の障がい福祉計画改訂の流れについて説明。</p> <p style="text-align: center;">(会議終了)</p>
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の公開、非公開（公開） ・ 取材（陸奥新報社記者1名） （東奥日報社記者1名）